

## 《東京研修を終えての感想》

1502 A.M

今回の研修に行ったことで、私の将来に対する思いは行く前に比べてかなり変化したのではないかと感じています。

1日目の最初に行ったのは、ディレクトフォース夏季プログラムでの対談です。義手を作っている近藤玄大さんに基調講演としてお話をいただいた後、3人の方々と対話をさせていただきました。どの方も私たちの質問に丁寧に答えてくださったので、「世界のグローバル化の中で、どう備えたら良いか？」というこのプログラムのテーマについてよく考えることができました。印象に残っているのは、第一クール目でお話した遠藤恭一さんが「常に未来を想像して、そのときのニーズに合った行動を今のうちからしていくことが大事だ」とおっしゃっていたことです。そのために若いうちから海外でいろいろなことを経験し、様々な人との会話力を鍛えていくべきだということを知り、重要なことを後伸ばしにしがちな私はもっと意識的に未来のことを考えて先回り行動しなくてはならないなと思いました。また、第三クール目の安達公一さんのお話「視野を広げてせまい価値観に囚われないようにしないと、これから先は何事もやっていけない」と、グローバル化が必須だということを知りました。どんな分野でもこれから先は世界に目を向けて、そこから日本がどのような立ち位置なのか、どのように行動すべきなのかということを知り、社会をより良くする必要があるのだと改めて思いました。他にも高校でしておくべきことや、将来を考える上でどのようなことに着眼をしたら良いのかなどを質問できたので、この対談はても充実した時間になったと思います。

次に私たちは企業・大学訪問のために東京大学大学院理学研究科で教鞭をとられている田近英一教授のもとを訪れました。私たち班員が皆地学に興味があり、大学院で地球惑星科学を研究されている田近教授の研究内容に興味を持ったというのが訪問のきっかけでしたが、実際にお話を伺うと研究内容以外に私たちの将来のことについてもアドバイスをいただけてとてもためになりました。田近教授は私たちに、今は高校の授業内容をしっかり学んで様々な知識を身につけてほしいとおっしゃっていました。使わないとその時思った知識でも、後で会話の話題になったり、たまたまそれを使ったりする機会が結構あるそうです。勉強は決して目先のテストや受験のためだけのものではないので、先のディレクトフォースの遠藤さんのお話にもあった「常に未来を意識する」ということにもつながるなと思いました。また、私が少し進路に迷っているというような話と質問をすると、興味のあるものの情報をできる限り多く集めると良いというアドバイスをいただくことができました。選択の連続である人生なので、より自分のやりたいことをするためにも、その道を選択したことを後悔しないためにも、情報集めは本当に大事なことなのだかと改めて思いました。

その他、お話を聞いていて興味深かったのは「地球温暖化は暴走せず、温暖化が進んでも生物が生きられない訳ではない」ということです。地球が生まれてまだ間もない頃から今までも温暖期は何度かあり、地球自体の現象としては温暖化は問題がないそうです。しかし、以前に起こった温暖化とは明らかに進むスピードが急速で、今の社会や政治、経済的に対応が難しくなってしまうので地球温暖化対策が騒がれるようになったということでした。今までの地球温暖化に対する理解と少し違う部分があったので、聞いていて面白かったです。いろいろなお話を聞いているうちに、気がつけば二時間が経過していました。時間を忘れてしまうくらい密度の濃い内容のお話を聞かせていただいて本当に有意義な訪問となりました。メモをもう一度整理し直すなどしていつまでも心に刻んでいたいと思います。

ホテルに戻り、夕食を食べた後は仙台二高のOB・OGの方々との座談会でした。様々な先輩方がいる中で、私は農学部在学の先輩や法学部や文系科目を選択している先輩にお話を伺いました。私はかなり進路に迷っている状態だったので、たくさんの先輩の経験談を聞くことが出来て本当に良かったです。進路選択についての内容をメインに話されていた先輩には、何のために勉強をしているのか、という「自分の軸」をしっかりと見据えると、モチベーションが上がってやるべきことを効率よく行うことができるとのアドバイスをいただきました。自分のやりたいことをもう一度よく見つめ直して、この場にいらっしゃった先輩方のように実りのある大学生活を送れるようにしたいなと思います。

2日目は東京大学の見学です。当日はとても暑く、クマゼミが鳴いていることに仰天しつつも私は「東大の魅力」を目と耳に焼きつけていきました。

まず午前中に、ワークショップや2人の東大生の方にプレゼンテーションをしていただきました。お話の中で一番「東大っていいな」と思ったところは「進学選択制度」があるということです。1、2年生の時に選んでいた科類とは全く違う学部に進学した先輩もいるということを知って、私のような優柔不断な人にはありがたい制度だと思いました。また、サークルや部活動の数もさすがだなと思うような多さで、まさに「やりたいことがやれる」そんな大学なのだと目をの当たりにしました。

また、「進路を見つめ直す」というワークショップでは、自分が今まで持っていた、何となく曖昧でまとまりのない将来への気持ちを整理することができて本当に良かったと思います。これを機に将来に対する見方が変わったと言っても過言ではありません。この研修に参加して本当に良かったと思った瞬間でした。

他にも、東京はアルバイトの時給がいい、一人暮らししやすいなどという細かい情報も得ることができたので、これからの大学選びの参考にしていきたいと思います。

そして、午後は研究室をいくつか見学し、個別で東大のFair Windの方々との相談会をしました。この時本郷キャンパスへ着くのが遅れてしまい、皆さんに迷惑をかけてしまったことが2日間の中で唯一残念なことでした。研究室では農学部の教授の方々の研究内容を紹介していただきました。今まであまり農学系に興味を持っていませんでしたが、身近ながらも特殊で面白いこと、そしてすぐに世の中で役立つものを研究しているのだと分かって少し興味を持つようになりました。この研修のような機会がないとなかなか見ることができないものをたくさん見学することができました。中でも金子豊二教授の研究室にはたくさんの水槽があり、「淡水魚と海水魚を同じ塩分濃度の水で育てる」など面白そうな実験が行われていました。海に面していない街中にある大学に、どのようにして海水を調達しているのかというと、業者から海水を買って運んできてもらっているそうです。あらゆる実験を立地条件などに囚われずに行える東京大学はやはりすごいと改めて思いました。

最後にあった相談会でも、いろいろなものを見た上での質問ができたので設けていただけたのはとてもありがたかったです。夕立に降られながらの引き上げでしたが、最初から最後まで情報をたくさん吸収でき、楽しめたので本当に良かったと思います。

今まで私は、何かを本気でしたいと思ったり、熱意を持って物事に取り組んだりということをあまりしてきませんでした。いつも将来に対する思いは曖昧で、そんな自分に焦りを感じるためか心は全く晴れやかではなく、東京研修に参加し終えた今でもまだいろいろなことへの迷いは断ち切れていません。しかし、研修に行く以前と違うのは、「自分が本当にやりたいこと」というのを認識できているということです。これまで何となくやってみたいなと思っていたことが実は錯覚で、向いているのは別のものなのではないか、自分はこれを本気でやりたいのでは、と、いろいろなものに触れることで見失いかけていた自分を再確認す

ることができました。東京で出会った方々、旅行会社の方、先生方、にそこはかとなくいい経験をさせていただいたことや家族への感謝は言葉で表せないほどです。研修で得たことは全て何らかの形で生かし、自分の納得のいく人生をこれから歩んでいきたいと思えます。